

片瀬のぞみだより(2月号)

日本基督教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
家庭通信2017. No.23

月主題聖句

『わたしたちは見えるものではなく
見えないものに目を注ぎます』

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節

片瀬教会牧師 柴 適

立春が近づいて来ましたが、厳寒の日が続き、春が待ち遠しい毎日です。東北地方や山陰地方の皆様は、大雪で生活が一変し厳しい日が続いています。一日も早く元の生活に戻ることが出来ますよう、又保護者の皆様の中に故郷がこの地方にある方の為にお祈りいたします。

さて、冬景色の中にも園庭には、鬼柚子(別名・獅子柚子)が二個、冬のエネルギーを根から受けて、日毎に大きくなり、梅の花も満開になりそうです。ご近所の庭には、椿や山茶花の花が咲き始めて、神様が創られた沢山の命が春の到来を告げていることに気づかされます。冬枯れの庭は、木も草も枯死しているかのようには思われますが、この間に根を下に向かって張り続け、命の力は蓄積され春の備えをしているのです。忍苦の冬は春のためになくってはならぬ限りない準備の時

なのです。アイザック・ニュートンは、りんごの落ちるのを見て、宇宙の神秘を解く鍵とも言うべき『万有引力の法則』発見しましたが、私達は万物を創造された神様が自然を通して語り教えてくださっていることに耳を傾ける時も大切にしていきたいものです。

さて、今月の月主題は『信頼』です。私達は『信頼関係』にあると言う時、それはお互いが相手信じて疑わず、相手の全てを信じて受け入れることです。神様との関係も同じです。今月の聖句『わたしたちは見えるものではなく見えないものに目を注ぎます』は、『だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人は、衰えてもいくとしても、わたしたちの内なる人」は日々新たにされていきます』に続く言葉なのです。私達の『外なる人』とは『私達の身体』を指し『内なる人』とは『私達の心』を指します。『私達の身体は衰えていくが、心は日々新たにされていく』見える身体も大切ですが、むしろそれ以上に見えない心が大切だとパウロは語ります。『心』を大切にするとする聖書の言葉があります。

旧約聖書の箴言(しんげん) 4章20節～23節に『わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けよ。わたしの言うことに耳を傾けよ。見失うことなく、心に納めて守れ。それらに到達する者にとって、それは命となり、全身を健康にする。何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある』とあります。心は目に見えませんが、神様に繋がっているのです。命の源が、自分の心を守ることから始まる時、心の中に神様が宿って、私達の命を守り健康に養い育ててくださるのです。もし、私達が目に見える世界だけに生きることが全てと思うなら、私達の人生は、見ることのみ、経験したことのみ生きることになり、そこには喜びや楽しみが全くない希望のない人生があるかも知れません。見えるものが全てではないことを教えられます。見えないものはいつまでも永遠に続くものです。見えませんが、生きて働いてくださる神様は、私達と信頼関係を持ちつつ永遠を思う心を想起させ、寄り添って、支え、励まし、心の平安と安心を今日も与えてくださっているのです。見えないものの中にこそ神様の臨在があるのです。

今日も、寒さを全く感じていないような元気さで、頬を赤く染めながら園庭を走り回っているお子様、砂団子作りに興じ、砂で食事作りに精を出し、ボール遊びに歓声をあげながら身体の俊敏性を養って喜びを味わっているお子様もいます。バランスを取りながらブランコを漕いでいる、教室で優しくお友達に教え遊んでいるお子様もいます。それぞれの個性に相応しく一人一人を神様は、春を迎える準備の時として様々な方法で厳冬の毎日を養ってくださっています。純真な笑顔と逞しく成長したお子様の眩しい姿が春を迎えるこの時期に一層輝いて見えます。神様は、昨日も今日も私達を愛してくださっています。感謝です。

残された今学期も、保護者の皆様方と教師の皆様が共に信頼関係をさらに深めつつ、お子様の成長と春の到来とを待ち望みつつご協力よろしくお願いたします。